

お寺や神社で勉強

甲斐正俊（栗ヶ畑）

私が入学した時は、国民学校でした。昭和二十年四月、大平洋戦争最後の年の入学でした。

物不足は深刻な時代で、カバンといえば紙で作った様な粗末な物で、服もなかなか買えなく、着物の人もおり、履物といえは、藁草履でした。

今の子供達には、考えられない事だと思っています。学用品にしても、鉛筆やノートも、今みたいに、すべすべしたのではなく、ざらざらしてすぐ破れてしまうようなものでした。それでも、一年生に入学した嬉しさで、胸をふくらませ、上級生に連れられ、毎日通学するようになりました。戦時中ですから米軍の飛行機による空襲が激しくなり、校舎での授業は危くなり、山の中で勉強する事もありました。通学も普通の道では危なく、山道から山道を通って、学校に行っていました。そんなある日、山の中で空襲に合い、アメリカ軍の発砲による散弾が近くの木々

にパラパラと落ちて来た時には、生きたこちらにしませんでした。本当に恐ろしい思いをしました。空襲は、激しくなるばかりで、学校での授業は出来ず、お寺や神社に分散しての授業でした。それから間もなく終戦になり、今日の平和と、民主主義の時代を迎えたわけですが、終戦後の方が、国民にとつては、大変なことで、

敗戦したのですから、物はなく、食料品から、衣服にいたるまで、クジ引きや、配給制で、分配していました。今から思えば、あの物不足はうそのようです。当時は生徒数も多く、各学年が、二組ずつありましたので賑やかなものでした。そして又、戦後のベビーブームを迎え、長谷小学校は、活気にあふれていました。それから私がPTAの役員をしていた五十二年から十四年頃が、最も生徒数が少なく、複式学級になるのではないかと心配しましたが、町の教育

委員会や関係者にお願ひして、何とか複式にならずに現代に至っていますが、この頃では長谷地区にも若い人が増え、子供達も百人を超えるのも間近の様で、本当に嬉しい事です。百周年を迎える長谷小学校を、三、七、七六名が卒業しています。数は富士山の高さと同じです。私の長年の夢でありました富士登山に、今年の八月に行く事が出来ました。運よく好天に恵まれて、山頂での素晴らしい御来光を拝むことができました。本当に感激し、しばし寒さも忘れ、見とれておりました。山頂はとにかく寒かったが夢がかない、満足でした。長谷小学校百周年の記念すべき年に、日本一の富士山に登る事が出来て、こんな嬉しい事はありません。本当に、忘れられない思い出になります。